

2月

みんなくウィークエンド・サロン

研究者と話そう

■時間 14時30分から15時30分

■展示観覧料が必要です。

※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館（みんなく）の研究者が来館された皆様の前に登場します！
「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」
などなど、話題や内容は千差万別！

どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。

6日
(日)

話者：鈴木紀（先端人類科学研究部准教授）

話題：チョコレートが育てる文化

場所：本館展示場内ナビひろば

13日
(日)

話者：長野泰彦（民族文化研究部教授）

話題：【春のみんなくフォーラム2011—ことばの世界へ】関連）

居庸関碑文の魅力

場所：言語展示場

20日
(日)

話者：南真木人（研究戦略センター准教授）

話題：増えるネパール料理店の考現学

場所：本館展示入口

27日
(日)

話者：關雄二（研究戦略センター教授）

話題：マチュ・ピチュ発見100周年

場所：本館展示場内ナビひろば

1年間みんなくは何度でも入館できる 「みんなくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんなくを楽しむための特典がいっぱいあります。

特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引

◆みんなくミュージアム・ショップとレストランの10%割引

◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。

詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。

(電話)06-6877-8893 / 平日9:00 ~ 17:00

編集後記

2月と8月と組み合わせて「ニッパチ」とよばれ、景気の悪い季節を指すが、2月の日数が少ないのは、8月の英語名の元となるローマ帝国初代皇帝アウグストゥスが8月の日数を増やす際に差し引かれたためという。うるう年の数字合わせに使われるなど、2月は何だかワリを食った月だ。他方で、「ニハチ」といえば蕎麦を思い出す。

ワリを食うといえば、時節柄の鬼も気の毒な存在だ。超自然、異界の存在は文化の機微を作りだすものだが、境界を乗り越え相対的な見方を促す存在でもある、という視点で鬼を見直そうという特集に合わせ、わたしも「鬼の交流博物館」取材に訪れた。展示から伝承や芸能の奥深さに目を開かれ、境界を越えようとする眼差しが異文化との交流の基本であることをあらためて感じた。

今号は、1977年10月の創刊号から数えて通巻401号の大作に乗った。毎月欠かさず刊行されてきたのは、読者諸賢のご支援、そして歴代の編集に携わった方々や協力いただいた方々の力があつたからに他ならず、深く感謝するとともに、未永く刊行できることを願う。(久保正敏)

●表紙：土鈴（鬼） 標本番号 H0143248 他

次号の予告

特集

梅棹「博情館」を語る

月刊みんなく 2011年2月号

第35巻第2号通巻第401号 2011年2月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1

電話 06-6876-2151

発行人 西尾哲夫

編集委員 久保正敏（編集長） 朝倉敏夫 榎永真佐夫
庄司博史 中牧弘允 山中由里子

編集アドバイザー 山内直樹

デザイン 宮谷一孝

制作・協力 財団法人千里文化財団

印刷 日本写真印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係に
お願いします。

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

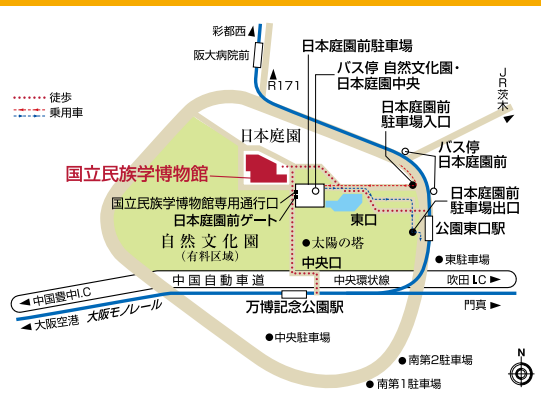
交通案内

●大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分

●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分（茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。）

●自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。

●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてください。



みんなくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

